

伝承芸能  
『大正踊り』  
資料編



仙台市立実沢小学校





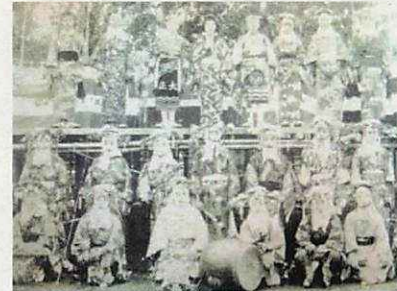
## 由来

### 【由来】

大正時代には、「大正花笠踊り」が盛んでした。それが、第二次世界大戦直後に復活しました。

そして、この踊りを実沢立田の佐藤由松さんという人が、実沢の人々に教えたそうです。

この踊りは、山形の花笠踊りや相馬盆踊りに似たものですが、田植え踊りにもにっていたようで、佐藤さんなりの独創的なものであったと言われています。



大正末・昭和初期の衣装

### 【復活のあゆみ】

平成4年10月22日、「大正踊り保存会」の設立総会が開かれ、復活の運びとなりました。保存会には、渡邊信一さんを会長に、地区の代表者、その他多くの方々が携わりました。

実沢・小角夏祭り、学芸会、冠のふるさと伝承祭り、祖父母学級などでの発表を目指して練習が始められました。練習には5・6年生、保存会、保護者の方々が体育館に集まり、夜にもかかわらず大変な盛り上がりを見ました。

踊りは、「手踊り」「扇子踊り」「はね踊り」の3種類がありますが、早坂直治さんと高橋伝さんのおふたりに指導していただきました。

### 【そして、いま】

大正踊りの鳴り物は、6年生の子供たちが受け持ち、毎年6年生から5年生へと受け継がれています。踊りの練習は、朝の活動の時間などに行っています。

「大正踊り」が確かな地域の伝統として根づいていくよう、入学式や運動会、学芸会、実小まつりなどの発表の場を通して楽しみながら継承しています。

大正踊りの昔のロマンを受け継ぎ、そして未来のロマンを求めて、今ここにわたしたちの伝統文化が輝いています。



■ はじめにもどる





# 踊り

## 正しい踊り方

大正踊りには、以下の3つの踊り方があります。

- 【手踊り】 手拍子を入れた踊り方。通常輪になって踊ります。児童の大多数はこの踊り方です。
- 【扇子踊り】 両手に扇子を持ち、優雅に振りながら踊ります。
- 【跳ね踊り】 手踊りの輪の内側を、ダイナミックな振り付けで踊ります。通常2～3人の踊りの名手が、この役を担います。踊りの花形とも言え、難易度が高く、小学生の発達段階では、踊るのが難しいとされています。

### 1 手踊りの踊り方

かけ声「さっさのぼらりとな、さっとやって、さっとやって、すっことんのすー」

#### ①「さっさの」

- ・両手を交差させ、くると一回転させ開きます。(2歩前進します)

#### ②「ぼらりとな」

- ・両手を1回ぱちんと合わせます。(とまります)

#### ③「さっとやって、さっとやって」

- ・体前で両手をくると回し、右上方向に両手を挙げ目線を送ります。  
(右足つま先を斜め前に出します)
- ・体前で両手をくると回し、左上方向に両手を挙げ目線を送ります。  
(左足つま先を斜め前に出します)

#### ④「すっことんの」

- ・両手を体の前でくると回し、体の方へ引きつけます。  
(右足を左足の前に振り、そのまま、半歩後ろへつきます)

#### ⑤「すー」

- ・両手をそろえ、すうっと前方やや上方に向かって伸ばします。  
(左足をすっと前へ出します)

※ロボットのようにギクシャクせずに、一つの流れとして動きをスムーズにします。

※ひざを柔らかくし、動きを柔らかかにします。

### 2 扇子踊りの踊り方 (手踊りと違うところ)

#### ①「さっさの」

- ・扇子を体前方で交差させ広げます。

#### ②「ぼらりとな」

- ・両方の扇子をそろえてすっと前に出します。



- ③「さっとやって、さっとやって」  
・手踊りと一緒(くるりとは回しません)
- ④「すつとことんの」  
・①と一緒。(右足を左足の前に出します。右足かかとが左足つま先に触れるくらい)
- ⑤「すー」  
・②と同じ動き



※扇子の持ち方・・・親指, 人差し指, 中指の3本を扇子の骨に入れて持ちます。

■ はじめにもどる





## 鳴り物

お囃子に使われる楽器は、篠笛、鉦、和太鼓の3つです。

### 1 篠笛

篠笛(しのぶえ)は日本の木管楽器の一つ。篠竹(雌竹)に歌口と指孔(手孔)を開け、漆ないしは合成樹脂を管の内面に塗った簡素な構造の横笛です。

伝統芸能では略して「笛」や「竹笛」と呼ばれることも多くあります。

尺八やフルートと同じく「エアリード楽器」に分類されます。また、篠笛は「移調楽器」であり、実際に出る音(実音)は管の長さによって異なります。



#### (1) 音域

篠笛の音域は2オクターブ半程度です。全ての指孔を塞いで出す「最低音」を「筒音」と呼び「唄用・七孔」篠笛では基本音に対し短三度程度低い音になるのが一般的ですが、製作者・地域によって異なります。基本音からの一オクターブ(低音域)を「呂音(りょおん)」, そのオクターブ上(中音域)を「甲音(かんおん)」, 更にオクターブ上の高音域を「大甲(だいかん)音」と呼びます。それぞれ音色が異なります。

・「筒音」および「呂音」は竹らしく暖かみのある柔らかい音色で、尺八との共通点も感じられる音域です。

・「甲音」は澄んだ美しい音色で、最も「篠笛らしい」音域とも言えます。

・「大甲」は非常に「甲高い」鋭い音で、遠くまで聞こえる派手な大音量です。

#### (2) 奏法

・篠笛は6つ穴のものを使います。

・篠笛の奏法は甲音(高い音)、呂音(低い音)のうち、できれば甲音で演奏します。

篠笛の伝統的奏法を他国の横笛と比較するにおいて最も特徴的なのは、タンギングを行わないことです。そのかわり、同音連続の際は極短時間指孔を開閉操作して「音を打ちます」(音を区切る)。これは「打ち指」と呼ばれる伝統的演奏技法で、祭囃子・神楽・獅子舞等の祭礼音楽において特に多用されます。祭り笛の音は俗に「ぴーひゃらら」と擬音で表現されます



が、「ひやらら」の部分が「打ち指」技法の特色をよく表しています。

基本運指以外の「半音」を出す際には、複雑な指使い(「クロスフィンガリング」)をあまり用いず、指孔の半開や息と歌口の角度(アンブシュア)を微妙に調整して音程を上げ下げする方法の方が好まれます。

## 2 鉦(すりがね)

鉦(すりがね)は金属製の打楽の一種。鉦吾(しょうご)、当たり鉦(あたりがね)、チャンチキ、コンチキ、チャンギ、四助(よすけ)などとも言います。

### (1) 形状

皿のような形状で、大きさは15cm前後のものが多く用いられます。撞木(しゅもく)と呼ばれる先端に鹿の角のついた棒で皿の内側を叩きます。



### (2) 奏法

奏法は、紐で吊るすか枠や柄をつけてそのまま撥で打つ場合と、左手に直接持って指で音色や余韻を変えながら打つ場合があります。先述の撞木で叩くことにより音を出しますが、その奏法は2種類あり、皿のふちを叩く場合と中央部分を叩く場合があります。

## 3 和太鼓

和太鼓(わだいこ)は、打楽器のひとつ。日本の太鼓の総称。締太鼓、桶太鼓、宮太鼓がある。祭礼、歌舞伎、能、神社仏閣社仏閣における儀式等に用いられ、木でできた胴に皮を張り、それを振動させて音を出すものです。

### ○撥

撥の材質は、樫や檜製のものが出回っています。しばしば竹で作られたものを使用することもあります。ラワン、松、白樺等、もろいもの、ささくれるもの、ヤニが出て皮を痛めるものは、撥には適しません。



■ はじめにもどる





# 衣装

## 1 扇子踊りの衣装



- 花笠
- 手ぬぐい
- 着物
- 帯
- 前掛け
- 手っ甲
- 脚絆



## 2 手踊りの衣装



- 花笠
- 手ぬぐい
- 法被
- 帯
- たすき
- 手っ甲
- 脚絆



## 3 鳴り物 (おはやし) の衣装



### (1) 篠笛・鉦

- 法被
- 帯

### (2) 和太鼓

- 陣羽織
- 帯





篠笛・鉦



和太鼓

[はじめにもどる](#)